unicef | for every child

公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信(No.107)uniwish34号(2020年8月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
（電話・FAX） ０９５２－２８－２０７７
（業務時間） 月・火・木・金 10：00～15：00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ http://www.saga-unicef.jp/
facebook http://www.facebook.com/unicef.saga

# 世界の子どもたちの状況報告

## 新型コロナウイルス感染症（COVID-19） ユニセフの対応

## 世界各地で学校が再開
## 子どもたちが安全に学ぶためにユニセフは、感染予防対策を支援

【2020年7月24日 コートジボワール／ベトナム／中国／エジプト／ 発】
新型コロナウイルス感染症の影響により、都市封鎖(ロックダウン)の実施が世界的にピークとなった今年4月、世界194カ国以上で学校の休校措置が取られていましたが、現在、世界各地の学校に子どもたちが戻ってきています。
国や地域によっては、学校は、子どもの安全や栄養状態を支える生命線となっており、休校の長期化によって子どもに対する暴力が増加するなどの悪影響も懸念されていました。
学校再開にあたり、ユニセフは、学校を安全な場に保ちつつ子どもたちが学習を続けられるように、政府や自治体、学校などと協力しながら、適切な感染予防対策を支援しています。
コートジボワール、ベトナム、中国、エジプト、で学校にもどってきた子どもたちの様子をご紹介します。手洗い、マスクの着用、体温チェックなどの対策が、学校生活に組み込まれつつあります。

★コートジボワール：
手作りのマスクで登校

© UNICEF/UNI330866// Frank Dejongh

★ベトナム：
ならぶ時も間隔をあけて

© UNICEF/UNI329516/

★中国： みんなの安全を、
みんなで守ろう

©UNICEF/UNI336269/Ma

★エジプト：一人ひとりが
こまめな消毒を

©UNICEF/UNI329197/Mostafa

## 子どもへの暴力、防止や対応の中断 南アジアなど104カ国で

【2020年8月18日 ニューヨーク発】
各国がCOVID-19を封じ込めるための予防・管理措置をとった結果、多くの重要な暴力防止・対応サービスが中断されました。半数以上の国で、児童福祉従事者やソーシャルワーカーによる虐待のおそれのある子どもや女性のケースマネジメント、照会サービス、家庭訪問の中断が報告されています。報告によると、暴力防止プログラムや児童福祉当局への子どものアクセス、国のホットラインサービスにも影響が及んでいます。

© UNICEF/UNI359085/Zmey

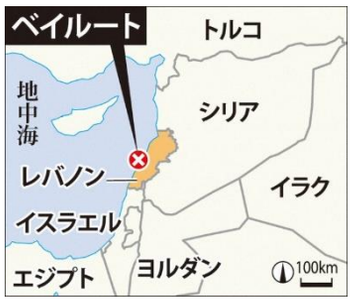
児童養護施設で学んでいたが、COVID-19の制限により自宅に戻ってきた4姉妹。今は定期的にソーシャルワーカーと面会し、家族が新しい生活様式に慣れるための支援を受けている。(ウクライナ2020年8月6日撮影)

**★ユニセフは、人道危機が起きている国々におけるパンデミックへの対応に焦点を当てて、2020年末までに以下を目指しています。**

（新型コロナウィルス感染症緊急募金サイトより）

- ○ 22億人にCOVID-19の予防に関するメッセージを提供する
- ○ 5,600万人に安全な水と衛生用品を提供する
- ○ 230万人の医療スタッフが感染予防・コントロールに関する研修を受ける
- ○ 440万人の生後6-59カ月の子どもが急性栄養不良の治療を受ける
- ○ 8,950万人の子どもと女性がユニセフが支援する保健施設で保健医療サービスを受ける
- ○ 3億人の子どもが遠隔授業或いは家庭学習の機会を得る
- ○ 2,400万人の子どもと保護者に地域に根差した精神保健・心理社会的支援を提供する
- ○ 522万人が性的搾取や虐待を通報する制度を利用できるようになる

# 2020.8.4　レバノン大規模爆発




レバノンの首都ベイルートで、今月4日に発生した大規模爆発。6,000名を超える死傷者が確認され、推計約8万人の子どもたちが避難を余儀なくされています。
ユニセフは発災当日から、被害を受けた人々への緊急支援を開始しました。被害を受けた子どもたちに、心のケアなどの支援も提供しています。

© UNICEF/UNI356239/Amro/AFP

大規模爆発の被害を受けたベイルート港。(2020年8月5日撮影)

## ユニセフ、3カ月で4,670万米ドル要請 10万人の子どもたちへの支援

【2020年8月14日　ジュネーブ／ニューヨーク発】
ユニセフは、今後3カ月間に10万人の子どもたちに支援を届けるため資金要請額を、4,670万米ドルに更新しました。それには、3つの大きな柱が含まれています。
第一に、子どもたちの安全を守ること
第二に、子どもたちの安全を守るための基本的で不可欠なサービスを回復させること。
第三に、被災した家族を助ける若者を支援すること(若者1,100人が、がれきの清掃、調理、食料や水の配給などで被災した家族を支援し、これまでに3,500人に手を差し伸べています。これらの若者は、収入を得るためのスキルを強化するためにユニセフが支援しているプログラムに参加している若者たちです。

© UNICEF/UNI357100

被災した家族の片付けを支援する若者たち

## 甚大な被害、トラウマを抱える子どもたち

【2020年8月18日　ベイルート(レバノン)発】
最新の統計によると、少なくとも3人の子どもを含む170人以上が残念ながら命を落としました。負傷者は6,000人を超え、その中には入院を必要とした31人を含む推定1,000人の子どもたちが含まれています。未だに数十人が行方不明になっていると言われています。**この爆発で愛する人を亡くされた方々に悲しみと哀悼の意を表し、怪我をされた方々の一日も早い回復をお祈りします。**
**30万人以上の方々が自宅の被害を受け、そのうち約10万人が子どもたちであると推定しています。子どもたちの心身の健康を守ることが、ユニセフの最優先事項です。**

© UNICEF/UNI360451/El Hage

シャワーを浴びているときに大規模爆発が起こり、頭に怪我を負った10歳のミラさん。(2020年8月15日撮影)

## 子どもたちとその家族の緊急ニーズに対応するために

【2020年8月21日　ジュネーブ／ベイルート(レバノン)発】
ユニセフがパートナーとともにこれまでに行ったことの一部を以下にご紹介します:
◆何百人もの子どもたちに心理的・社会的な応急処置を行い、何百人もの保護者に健康カウンセリングと照会を行いました。
◆60以上の建物を公共の水道システムに再接続し、被害を受けた家に109の貯水タンクを設置しました。
◆中央医薬品倉庫から98パーセントの医薬品とワクチンを移設し、プライマリ・ヘルスケア・センター、調剤所、UNHCRの予防接種実施場所、その他の予防接種会場に配布しました。
◆·350万米ドルの個人用防護具(PPE)を含む、人道物資の輸送を3回行いました。
◆1,100人以上の若者を支援して、被害を受けた家の清掃や修理を行い、食料やマスクを配布しました。

© UNICEF/UNI360109/Francis

自宅で4歳から11歳の3人の子どもたちを抱きしめるファテンさん。家族はユニセフと現地のパートナー団体から心理社会的支援を受けている。(2020年8月11日撮影)

## ユニセフ外国コイン募金
### ― 余った外貨で救える命があります ―

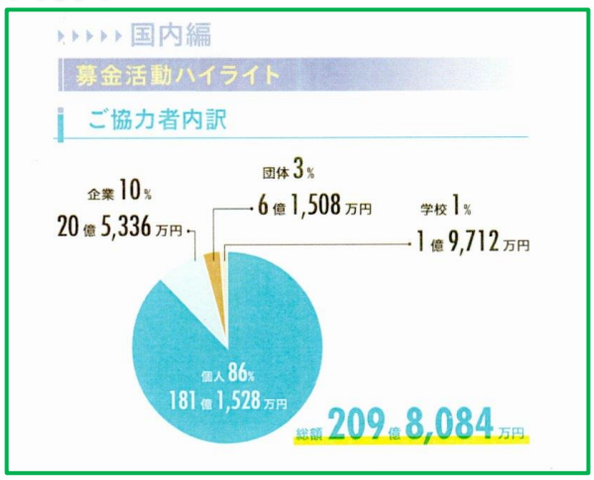
海外旅行や出張で使い残した外国コインや紙幣。どうしようかと悩んだ末に引き出しの奥に保管し、眠ったままになっていませんか。
これらの外国コインや紙幣を子どもたちのために役立てられるのが「ユニセフ外国コイン募金」です。皆さまからお預かりした外国コイン・紙幣は、通貨別に仕分けされた後、世界の子どもたちのための支援活動に使われます。
※現在流通している通貨のみを受け付けております。
※領収書は発行できませんのでご了承ください。

# 日本ユニセフ協会 2019 年次報告から

★皆様には、日頃からユニセフへのご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。2019年度の年次報告が出されましたので概要をご報告します。

2019年は、日本を含む先進各国でも大規模な災害が頻発をしました。そのような状況にもかかわらず、日本ユニセフ協会にお寄せいただきました募金総額は、初めて200億円を超え、ニューヨークユニセフ本部への拠出額も過去最高となりました。特に使途を指定しないあらゆる国や地域、支援内容に生かすことのできる「通常予算」への拠出はアメリカを抜いて世界1位となり、世界でのユニセフの活動に大きく貢献することができました。

★また、日本でお預かりする募金額の86%を占めるのが個人の皆様からの募金です。さらにその52%が毎月の定額募金『マンスリー・サポート・プログラムによるものものです。⇒右グラフ




## みなさまが支えたユニセフの活動

2019年度に日本ユニセフ協会がみなさまからお預かりしたユニセフ募金の総額は、

**209億8,084万円。**

その81.0%（170億円）はユニセフ本部を通じて世界の支援プログラムに、19.0%は日本国内でユニセフや子どもの問題への理解や支援を広げる活動、日本の子どもたちの権利課題の解決に向けたアドボカシー活動などに充てられました。

より多くの支援を得るための
**募金活動**

子どもたちの問題とユニセフの活動を広める
**広報活動**

子どもの権利に関する啓発と課題解決に取り組む
**啓発・アドボカシー活動**

日本国内でのユニセフ活動を支える

国内の活動へ ▶▶▶▶▶ **19%**

世界の子どもたちへ **81%**

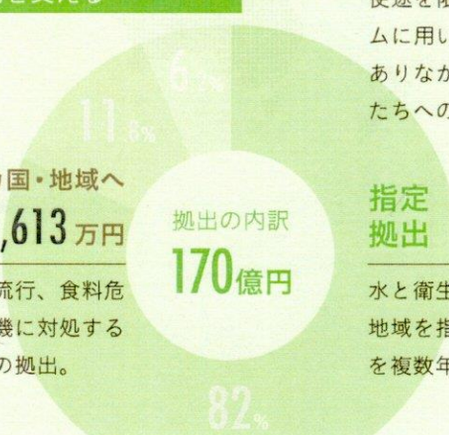
世界のユニセフの活動を支える

**通常拠出 82%**　日本から世界へ 139億4,531万円

使途を限定することなく、ニーズに応じて様々なプログラムに用いることができる通常予算への拠出。厳しい状況にありながら、世界の注目を浴びることのない国々の子どもたちへの支援を可能にし、中長期的な支援を支えます。

**緊急拠出 6.2%**　日本から6カ国・地域へ 10億5,613万円

絶え間ない紛争や自然災害、感染症の流行、食料危機など、緊急に支援が必要な深刻な危機に対処するためにご支援いただいた緊急募金からの拠出。




**指定拠出 11.8%**　日本から31カ国へ 19億9,856万円

水と衛生、教育、HIV/エイズなど特定の活動分野や、国・地域を指定してご支援いただくなど、特定のプロジェクトを複数年にわたってご支援いただく指定募金からの拠出。

6　7

# 佐賀県ユニセフ協会 2019 事業報告から

★佐賀県ユニセフ協会を支援してくださる皆様に、昨年度の事業報告をいたします。
　ユニセフの活動は、大きく2つです。主に皆様に直に支援をしていただく『募金活動』と、ユニセフの理解を広げるための『広報・啓発活動』を行っています。昨年度1年間の募金総額は￥5,180,653円でした。また、ユニセフを支援する「母子草」さんからも、使用済み切手などの収益を募金として支援してくださいました。
★広報活動については、幼･保、小･中、高校、一般の方まで、幅広く出前授業や講話の要請がありました。「子どもの権利条約」や「持続可能な開発目標ＳＤＧｓ」をテーマに、世界の子どもたちが直面している問題について伝え、自分たちに何ができるかを考えてもらいました。イベントも合わせて、県内外で88回活動をしました。

## ★ 2019年度　佐賀県ユニセフ協会における　ユニセフ募金

（自:2019年1月1日　　至:2019年12月31日）

**総計　5,180,653 円**

〇募金先 内訳

| | |
|---|---|
| ・通常募金 | 1,671,586円 |
| ・ロヒンギャ難民緊急募金 | 237,245円 |
| ・イエメン緊急募金 | 217,744円 |
| ・東ティモール指定募金 | 409,591円 |
| ・インドネシア地震緊急募金 | 213,005円 |
| ・アフリカ干ばつ緊急募金 | 70,463円 |
| ・ハンド・イン・ハンド | 2,352,019円 |
| ・支援ギフト | 9,000円 |

## ★出前授業・講話を通して世界の子どもたちの現状やユニセフの仕事などを広報

| 講師派遣（回数） | | | | | | 協定地域組織への訪問（回数） | | | | | イベント | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 幼保 | 小学校 | 中学校 | 高校 | 一般 | 小計 | 小学校 | 中学校 | 高校 | 一般 | 小計 | | |
| 1 | 13 | 5 | 1 | 4 | 24 回 | 2 | 7 | 3 | 17 | 29回 | 35 回 | 88 回 |
| 25人 | 825人 | 685人 | 860人 | 308人 | 2703人 | 2人 | 13人 | 12人 | 25人 | 52人 | 約4200人 | |

＊募金贈呈式での講話などを含む。大学生は一般に含む。
＊事務所訪問は、募金贈呈後のミニ講話・調べ学習・活動前の事前学習・情報収集・活動相談等を含む。
＊イベントは、２５周年事業やSDGｓ絵画展、ハンド・イン･ハンドなど様々なイベントを含む。

## ★「ユニセフを支援する会：母子草」による、書き損じはがき・使用済み切手等の募金協力

使用済み切手の整理ボランティア

| 年　度 | 募金額 |
|---|---|
| 2012年度 | 357,230円 |
| 2013年度 | 354,645円 |
| 2014年度 | 272,569円 |
| 2015年度 | 467,507円 |
| 2016年度 | 387,987円 |
| 2017年度 | 477,325円 |
| 2018年度 | 233,331円 |
| **2019年度** | **642,615円** |

# SDGsにどう取り組むか
## 日本での取り組みの実例を紹介します

ー地球と人類の永続的発展を確保するためにー

2030年、私たちの地球そして日本はどうなっているでしょうか？様々な地球規模の課題克服と豊かな活力ある社会の実現に向けて、未來は私たちにゆだねられています。SDGs持続可能な開発目標は、2015年に193の全国連加盟国によって採択された2030年までによりよい社会を目指す世界共通の目標です。SDGsは先進国と全ての国と人のためのものです。

17の目標は、互いに関連し合い、同時に解決を目指しています。国、自治体、企業、市民社会、個人などあらゆるアクターの力と参加を必要としています。

12 つくる責任 つかう責任

### 食品ロスに新たな価値を

**株式会社 日本フードエコロジーセンター**

スーパーや食品メーカーから廃棄される食品を回収し、独自開発のシステムにより発酵飼料化し、畜産農家に提供することで、食品の無駄をなくそうとしています。

今日本では、食品8000万トンのうち、3分の1にあたる2800万トンが毎年廃棄されていると言われます。
農業生産者、食品メーカー、流通、消費者などが同じベクトルに向かって食品ロスを削減していくことが大切です。

8 働きがいも 経済成長も

### 全ての人が誇りをもって輝き続けられる社会を

**一般社団法人 ラ・バルカ**

障がい者や引きこもりの方が積極的に働けることを重視し、様々な人が働けるチョコレートブランド「クオンチョコレート」を全国展開。さらに、障がい者雇用に取り組む団体などを支援するために、障がい者ショコラピエの育成、研修や運営のノウ・ハウをフランチャイズ方式で広めています。

### つくる責任・つかう責任・あとしまつの」責任

12 つくる責任 つかう責任

**会宝産業 株式会社**

1969年に自動車解体業として創業した会宝産業は、環境保全に繋がる経済活動へと発展し、世界へと広げています。
日本で培ったリサイクルのノウ・ハウをブラジルで展開しています。今現在、ブラジルで行っている自動車リサイクルを今後は世界各国に広めていきたい。国連から商業的な成功と持続可能な開発が評価され、中小企業として初めて、BCC（ビジネス行動要請）として認証されました。

6 安全な水とトイレを世界中に

### 安全なトイレを世界中に

**株式会社 LIXIL**

リクシルはトイレの未整備によりもたらされる世界衛生問題の改善を目指し、安価で高品質のトイレを途上国に提供しています。

世界では現在でも約23億人が、安全で衛生的なトイレを使えていません。安全なトイレがないことで周りの水が汚染され、その結果、約800人の子どもが毎日命を落としています。

私たちは、安価で衛生的なトイレを25ヵ国以上にお届けしています。

14 海の豊かさを守ろう

### 綺麗な海を未来に残す

**山陽女子中学校・高等学校 地歴部**

瀬戸内海のプラスチックごみによる海洋汚染に着目し、地元漁師と共同して海のごみの回収・分析を行っています。海ごみの起源地である内陸部や沿岸地域において啓発運動を行っています。

私たちの回収だけでは追い付かないので、海底ごみ問題について、より多くの人に知ってもらうことが課題です。海から離れているほど海ごみについての理解が進んでいません。海の近くに住んでいる人も離れて住んでいる人も同じ意識を持ってもらえるように取り組みたいです。



＜【外務省×SDGs】どれから始める？未来のために　より引用＞

★新型コロナウイルス感染予防のため、佐賀県ユニセフ協会でも延期を予定していました『ユニセフチャリティーバザー』を中止することにしました。関係者の皆様、次年度は、実施できればと願っています。その時にはご協力をよろしくお願い申し上げます。

○　6月12日（金）内野産婦人科医院様より募金贈呈
WHO・ユニセフ認定のBaby Friendly Hospital
「赤ちゃんにやさしい病院」（2004年6月佐賀県初のBFH認定施設）
＜内野産婦人科医院＞

○　6月16日（火）長崎市立小ヶ倉中学校出前授業　『平和学習』＜小ヶ倉中学校体育館＞
内容：世界の平和について理解を深めよう
対象：小ヶ倉中学校　3年生　59名

○　6月22日（月）北川歯科・こども歯科様　募金箱設置のミニ研修
内容：ユニセフ活動及び募金の使途について
対象：北川歯科スタッフ数名
＜北川歯科・こども歯科＞

○　6月25日（木）日本ユニセフ協会協定地域組織情報交換会（オンライン会議）スタッフ8名参加
＊日本ユニセフ協会からの報告
＊各地域組織からの報告及び情報交換　（26地域組織から）＜佐賀県ユニセフ協会事務所＞

○　6月26日（金）平戸市立田平中学校「総合的な学習の時間」の出前授業
内容：ユニセフ通して世界に目を向ける
対象：田平中学校　3年生　62名
＜田平中学校　体育館＞

○ 7月 1日（水）ドリームパーク　出前授業　神埼市立脊振小学校
＊『水から世界を考えよう』～水のろ過実験～
＊　夢組、ほし組　　16名　　＜脊振小学校　理科室＞

○ 7月 3日（金）佐賀市立嘉瀬小学校　『平和集会』出前授業
＊「ユニセフと世界の友だち」
＊参加児童　1年生～6年生　243名
＜嘉瀬小学校　体育館＞

○ 7月11日（土）早稲田佐賀中学校　出前授業　『ＳＤＧｓ学習』
内容：ユニセフ通して世界に目を向ける
対象：早稲田佐賀中学校　3年生　111名
＜早稲田佐賀中学校　多目的室＞

○ 7月14日（火）長崎市立片淵中学校 総合的な学習 出前授業
内容：『平和な世界を実現するために何ができるか』
対象：片淵中学校　3年生　35名
＜片淵中学校　多目的室＞

○ 7月15日（水）早稲田佐賀中学校　ボランティア委員会　出前講座
内容：ユニセフとボランティア活動
対象：早稲田佐賀中学校　1年生～3年生　20名
＜早稲田佐賀中学校　3-1教室＞

○　8月4日（火）Z00m　講演会「マリー・ルイズルのオンライン報告会」
～ワンダの子ども達の現状報告～
スタッフ12名参加　＜佐賀県ユニセフ協会事務所＞

○　8月6日（木）～9日（日）第29回 佐賀市平和展　（4日間）

＊「中村哲氏　追悼」“危機の中の子どもたち”ユニセフ・アフガニスタン写真展
＊地雷レプリカ展示、ＳＤＧｓ広報（パネル展示、ＳＤＧｓサイコロ作成）
＊参観者　約250名　＜佐賀市立図書館＞

○ 8月18日（火）弘学館高等学校　生徒会役員　事務所訪問　　16:00～17:00
＊文化祭で「ユニセフ募金活動及びＳＤＧｓ広報活動」を実施するための事前研修
＊『ユニセフとボランティア活動』「展示品や展示方法について」
＊弘学館高等学校　生徒会役員　2年生　4名
＜佐賀県ユニセフ協会事務所＞

○ 8月19日、26日（水）佐賀県立小城高等学校生徒　事務所訪問
内容：『ＳＤＧｓ調べ学習』
対象：小城高等学校　2年生　各4名、担当の先生
＜佐賀県ユニセフ協会事務所＞

○ 8月25日（火）コープさが生協様より　中尾清一郎会長へ募金贈呈
＊東ティモール指定募金　及び　新型コロナウィルス募金
＜佐賀新聞社＞

## これからの行事予定

2020年度は、新型コロナウイルスの感染対策でイベントや行事が中止になっています。
その中で、今後**実施予定の行事**を紹介します。

○ 9月17日（木）佐賀南地区郵便局長会から使用済み切手の贈呈（母子草さんへ）

○ 9月29日（火）SDGs絵画展　応募作品　審査会（佐賀市立図書館）

○ **10月18日（日）～22日（木）第4回　SDGs　絵で伝えよう「私たちに地球」を守る絵画展**
**10/18　表彰式、10/18～10/22　入賞作品の展示（佐賀県庁　県民ホール）**

○ 11月25日（水）、12月2日（水）神埼市ドリームパーク出前授業
（千代田中部小学校）

○ 12月上旬　　第45回　ユニセフハンド・イン・ハンド募金活動

## ご支援ありがとうございます

コープさが生協様　田口電機工業株式会社様　庭園業・一州様　佐賀リハビリテーション病院様　美容室NEWモア様　佐賀市立高木瀬小学校様　合資会社今右衛門様　内野産婦人科様　平戸市立田平中学校様　国際ソロプチミスト佐賀西部様　母子草様

（順不同：2020 年5月 1 日 ～2020年8月30 日）

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。

# unwish の 仲間たち!

## 松尾学園 弘学館高等学校 生徒会の皆さん　―佐賀市―

弘学館高等学校　生徒会の皆さん

【ユニセフへの募金贈呈】

★松尾学園 弘学館中学校・高等学校は、今から33年前の昭和62年に、松尾建設株式会社の創業百周年記念事業として、21世紀の日本を担う、指導者の育成を目指し、佐賀鍋島藩　藩校「弘道館」に匹敵する”現代の藩校”たらんとして開校しました。校名の一文字もそこに由縁するところです。
★校是を「自立・創造・飛躍」とし、”教育の柱”としては、『中高一貫教育』、『全寮制』、『国際性涵養』の3項目を基盤として、金立山の麓の風光明媚な環境の中で特色ある教育を展開しています。
★“いつも考えています　子どもの今と将来”の理念のもと、生徒たちは、「難関大学進学」、「人格形成」、「健康育成」、「環境づくり」の4つを目標に、自分の夢に向かって日々学びを続けています。

弘学館　校章

◆弘学館高等学校の生徒会について紹介します。生徒会は1・2年生14名で活動をしています。常時活動としては校内放送を担当し、今は休み時間に、新型コロナウイルス感染防止の換気や手洗い、マスク着用を呼び掛けたり、音楽を流したりしています。また、校内の緑化推進活動として、花の植栽や水やり等の校内美化にも取り組んでいます。これからの最大の楽しみは、躍動感あふれる体育祭の運営です。生徒皆の学校生活が、楽しく充実したものになるようにと願って活動をしています。

【生徒会で花の植栽】

### ユニセフ募金活動やSDGs広報活動でユニセフとつながる弘学館高校の生徒の皆さん

◆生徒会では、今年も世界の厳しい環境で生きている子どもたちに目を向けた「ユニセフの募金活動」や「SDGsの広報活動」に取り組みます。夏休みにはユニセフの事務所に出かけて、ユニセフの活動の様子や募金の使われ方などについての事前研修も行いました。今年は新型コロナウイルス対応で文化祭は出来ませんが、「地球のともだち」の様子を動画で紹介したり、ユニセフの支援物資の展示したり、実際に使われている水がめ運びの体験などを通して、“世界の子どもたちの現状”を身近に感じてもらう工夫をしていきたいと思います。
　また、2030年までに課題解決が求められるSDGs17の目標についても、この機会にしっかり調べ、正しい情報をみんなに発信していきたいと考えています。

【ユニセフについて学ぶ】

【世界の子ども達について調べる】

【ＤＶＤで実際の様子を知る】

【ＳＤＧｓについて広報する】

**≪生徒会担当の平尾智孝先生からのコメント≫**

　今年度の生徒会が立ち上がって、もう半年が経ちました。今年は新型コロナウイルスの影響で例年通りの活動ができないことも多いですが、「友だちと話をしながら昼食をとることができず静かでさみしいので、アンケートをとってみんなの好きな音楽を流したい」など、自分たちで必要なことを話し合って学校に提案してくれています。コロナ禍で「できないことよりもできること」に目を向けて今後も活動していってほしいです。

（原稿提供：弘学館高等学校 平尾智孝　先生　　取材：江島きよ子）